



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

バハレーン：議会選挙の実施（最終結果）

11月29日、バハレーンで第4回評議院議員選挙の決選投票が行われた。同投票は、22日に実施された第1回投票において、当選者の決定がなされなかった各選挙区で、得票率上位二者だった候補者によって争われたもの。第1回投票の結果により、全40議席中、34議席が決選投票にかけられることになっていた。（第1回投票の結果に関しては「[バハレーン：議会選挙の実施（第1回投票の結果）](#)」『中東かわら版』No.189（2014年11月25日）を参照）。

今次選挙には、ウィファークを始めとする野党系の4政治団体がボイコットしたことで、多数の親政府派の議員が当選した。他方、当選者の大半は無所属の議員であり、既存の政治団体が獲得した議席数はわずか5議席（アサーラ2、ミンバル2、ラービタ1）だった。また、無所属のシーア派議員は13人で、3人の女性（いずれもシーア派）が当選した。当選した議員のうち、30人が新人である。

政府発表の第1回投票の投票率は52.6%だったが、ウィファークのアリー・サルマーン事務総長は、「投票率は30%以下であり、投票者の80%は軍と政府の人間である」と主張した。

今次選挙を受け、30日、内閣は解散した。バハレーンでは、憲法第33条の規定により、内閣は新たな議会の会期ごとに解散することになっている。

評価

第1回投票の結果から既に明らかになっていたように、既存の政治団体は、2002年の第1回選挙以降、最大の敗北となった。有効な政治的イニシアティブを発揮できていないことが、今回の選挙結果に反映されたといえよう。

ウィファークは今次選挙について、司法の独立や、市民を代表する制度、権利の保護などが確保されない限り、我々が選挙に参加することはないとしているものの、選挙の実施や結果そのものについては異議の申し立てをしていない。選挙前日にはボイコットを唱えるデモ隊に対して警察が催涙弾を発射する騒ぎはあったが、選挙自体に混乱が発生することなく、無事に収束する見込みである。

ウィファークは2011年以降、議員を全て辞職させており、「国民対話」を通じて政府との対話を行ってきた。今後も議会外において対話が継続すると見られる。

（村上研究員）

©本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799